

在日ウズベキスタン人留学生支援におけるメンタリングの意義  
 –留学生のキャリア形成プロセスに注目して–

**SIGNIFICANCE OF MENTORING IN SUPPORTING UZBEK INTERNATIONAL STUDENTS IN JAPAN**

**FOCUSING ON THE CAREER DEVELOPMENT PROCESS OF INTERNATIONAL STUDENTS**



<https://doi.org/10.24412/2181-1784-2022-22-92-101>

**Khasanov Firdavs**

筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群

国際日本研究学位プログラム 博士後期課程

[khasanovfirdavs@gmail.com](mailto:khasanovfirdavs@gmail.com)

**ABSTRACT**

*As the number of international students increases, support for international students in a broad sense is required in order to comprehensively build an international student environment such as life and career support as well as teaching Japanese.*

*Online mentoring has been conducted by the Uzbekistan Youth Associations in Japan since May 2020, and has been conducted 46 times until February 2022. Mentors are Uzbeks with some experience learning and working in Japan, talking about their careers and giving advice.*

*The motivation for writing this paper is to examine the characteristics and significance of mentoring as a support for Uzbek international students.*

*The purpose of the research is possible to clarify how Uzbekistan international students develop their careers from the time they start learning Japanese until they study abroad in Japan, or until they go on to higher education, and what kind of influence mentoring has had on their career development.*

*By showing the career development process of Uzbek international students on a TEM diagram, multiple points that became branch points and essential transit points were clarified.*

*The influence of mentoring was seen on the career development process of Uzbek international students. It participated in mentoring and received advice and support from mentors such as Japanese information, career models, and support for entrance exams and interview tips. In addition, it can be said that he has transformed from a "working international student" to a "growing international student" by receiving advice from a mentor for a part-time job and future. It is thought that mentoring had a great influence on the career development of international students.*

*From the above results, I would like to conclude this paper that mentoring is meaningful in being able to consult with a mentor from the same country in the career development of international students.*

**Keywords:** student support, mentoring, career development process,

**1. 研究背景と目的**

日本政府は「留学生 30 万人計画」を発表し、2020 年までに留学生 30 万人を日本国内に受け入れるという目標を掲げていた。しかし、新型コロナウイルス感染症（以下、「*covid-19*」と記す）の影響により目標未達である。令和 3 年 6 月末の留学生数は 227,844 人、その中、在日ウズベキスタン人留学生数は 1387 人で、(出入国在留管理庁)今後増加する傾向にあると言える。

留学生の増加に伴い、日本語の指導がもちろん、生活、キャリア支援など留学生環境を総合的に構築するためには広い意味での留学生支援が求められている。

上記の日本におけるウズベキスタン人留学生の増加を受け、2018年6月2日にウズベキスタン政府支援の元、在日ウズベキスタン青年協会（以下、「UYAJ」）（英語名：UYAJ=Uzbekistan Youth Associations in Japan）一般社団法人が設立された。UYAJは、日本で勉強する・勤務するウズベキスタン人の勉学・生活支援、権利、利益を守る、活動を行っている。その支援の一つの仕組みとして UYAJ メンタリングプロジェクト（以下、「メンタリング」）が行われている。Covid-19の影響を受け、2020年5月からオンライン・メンタリングが実施され、2022年2月現在まで46回行われた。メンター達が日本で学んで、働いている、ある程度経験を持つウズベク人で、自身のキャリアについて語り、助言をしている。

メンタリングがウズベキスタン人留学生の支援としてどのような特徴を持っているのか、どのような意義があるのか検証することが本研究執筆の動機となっている。

ウズベキスタン人留学生が日本語学習を始めてから日本へ留学するまで、または、進学や就職するまでどのようにキャリア形成するのか、そのキャリア形成にメンタリングがどのような影響を与えたのか明らかにすることが研究の目的である。

本研究では、メンタリングにメンティとして参加した1名のウズベキスタン人留学生にインタビューし、第1期「日本語学習を始めるから日本へ留学するまで」、第2期「日本で勉強を始めてから進学する」までのキャリア形成プロセスとそのプロセスにメンタリングがどのような影響を与えたのか検証する。

そのため、以下の研究課題(RQ)を設定する。

**RQ I** : ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスを構成する経験と変容、およびその背景にある社会的要素とは何か。

**RQ II** : ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスにメンタリングがどのような影響を与えたのか。

上記の研究課題(RQ)の解決を通じて、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成支援に対する新たな見方を提示することをめざす。

## 2. 先行研究

メンタリングとは、「知識や経験の豊富な人々（メンター）が、未熟な人々（メンティ）のキャリア形成と心理・社会的側面に対して、一定期間継続して支援すること」（渡辺・久村，1999）である。

山本（2020）は、大学留学を経て卒業後に日本での就職を実現した私費外国人学部留学生のキャリア形成に焦点を当て、留学生のキャリア形成支援に携わることの教育的意味を探求した。山本（2020）は、留学から卒業を経て社会人となる数年間の時間軸における、個人の自己のあり方に関する主体的な意識形成の過程を「留学生のキャリア形成プロセス」として捉え、上記期間内の個人の意識形成に影響を与えた経験や変容、その背景にある社会的要素を、何らかの研究・教育的手法を用いて他者に向けてのことばとして表現する行為を「キャリア形成プロセスの言語化」と定義した。また、大学を含む社会の中に、キャリア形成プロセスの言語化を行うための場づくりが必要であることを主張した。

本研究では、ウズベキスタンで日本語学習を始め、日本へ留学したウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスの言語化を行う。

### 3. 研究方法

#### 3. 1. 研究の方法論

本研究では、方法論として、TEA(複線径路・等至性アプローチ、安田ほか 2015a)を用いる。TEAは、時間を捨象せず、個人の変容を社会との関係で捉え、記述しようとする文化心理学の方法論である。その手法的特徴は、研究者の興味・関心のある事象に焦点を当て、事象が生じた構造(structure)よりも、そこに至るまでの過程(process)を理解することに適している点にあるとされる(安田ほか 2015a)。「複線径路等至性モデリング(以下、TEM)」は、TEAを用いた研究の重要なアプローチである。

表1 TEMの用語と本研究における意味

TEMの用語(略称)	用語の意味
等至点 (Equifinality Point: EFP)	研究者が興味・関心をもった現象  (本研究では「日本へ留学する、進学すること」)
両極化した等至点 (Polarized EFP: P-EFP)	等至点に対する補集合的経験  (本研究では「日本へ留学しない、進学しない」こと)
分岐点 (Bifurcation Point: BFP)	等至点に至る過程で生じた径路の分岐や新しい選択肢  (例: 現地の大学を辞める等)
必須通過点 (Obligatory Passage Point: OPP)	制度的・慣習的・結果的に、ある状況や行動・選択に至る点で必ず通るポイント  (例: 日本のビザが取れる)
社会的助勢(SG) (Social Guidance: SG)	等至点に向かう個人の行動や選択を促したり助けたりする社会的な後押し  (例: 家族の応援、日本文化に興味を持つ等)
社会的方向付け (Social Direction: SD)	等至点に向かう個人の行動や選択に制約的・阻害的な影響を及ぼす社会的な力  (例: 漢字の学習が難しい、来日できるか不安になる等)

#### 3. 2. 研究協力者

本研究協力者1名、R、の頭文字で表す。Rはウズベキスタンから来た留学生、日本のN市にある日本語教育機関(以下、日本語学校)の学生である。Rに調査の依頼をし、3回半構造化インタビューを行った。Covid-19の影響により、インタビューは対面ではなく、オンライン会議システムZOOMを使って実施した。

表2 研究協力者の情報

仮名	性別	年齢	インタビュー日時 (3回)	在学先	進学先
R	男性	20代	1回目 2021.03.20.(55分) 2回目 2021.05.26.(58分) 3回目 2022.01.04.(55分)	日本語学校 2年次	日本の大学

### 3. 3.分析の手順

分析の具体的な手順としては、1)インタビュー記録の文字化スクリプト作成、2)スクリプトをウズベク語から日本語へ翻訳、3)文字化スクリプトに基づく TEM 図の作成、4)作成した TEM 図に基づく再インタビューと内容の確認、5)TEM 図の修正、6)修正後の TEM 図の確認、という 6 段階を経た。

TEM 図の作成に際しては、研究者の興味・関心である等至点(EFP)を第 1 期「日本へ留学する」、第 2 期「進学する」ことに設定した。次に、インタビューデータに基づき、等至点に至るまでの個人の経験と認識を時系列に沿って並べ、そこから径路が発生・分岐するポイントである「分岐点(BFP)」や、ある経験をする際に必ず行き当たる出来事や行動選択となる「必須通過点(OPP)」を把握していった。そして、分岐点を支える「社会的助勢(SG)」と、反対にそれを妨げようとする力である「社会的方向づけ(SD)」を記入し、図式化した。

### 4. 結果

#### R のキャリア形成プロセスの言語化

以下、R の語りから第 1 期「日本語学習を始めるから日本へ留学する」まで、第 2 期「日本で勉強を始めてから進学する」までの経路を TEM 図で示し、言語化した。

R は 2017 年スポーツ専門学校の 2 年生のとき、日本語の学習をはじめた。それは、周りの友達が英語、韓国語など言語学習を始めた (SG1) からである。R も言語学習に興味を持ち (SG2)、日本語教室へ行ってみた。子供の頃カラテに通ったため日本語で「先生」や「始め」など簡単な単語がしっていた (SG4)。また、日本語の先生が良く (SG5)、教室環境も良かった (SG6)。日本語の勉強に意欲が高まり、4ヶ月で JLPTN5 取得した。

しかし、漢字の学習の難しさが (SD1)、学習を続けられないと思った (SD2)。また、スポーツ大会に参加するための訓練で忙しくなり (SD3)、大学に入学するために大会に勝って、証明書を得る必要だった (SD4)。そのうえ専門分野の勉強もあった (SD5) ため、日本語の学習を一時的に辞めた。R は、ウズベキスタンのスポーツ大会に優秀し、現地のスポーツ大学に入学した。2019 年に交通事故があってスポーツができなくなった (SG7)。R は自分の将来を心配し (SD6)、ストレスになった (SD7)。日々悩んでいたとき、言語センターに日本人の先生が来た (SG8) ことを知った。1 年間休んだ後、また日本語の学習を再開する (BFP1)。日本語の勉強が楽しくなり (SG9)、日本の文化に興味を持ち (SG10) 始めた。日本人の先生が日本へ留学することを勧めた (SG11)。家族も留学を応援し (SG12)、日本にいる友達も支えた (SG13)。R、日本へ留学することを決めた。

しかし、日本での生活が難しい (SD8) また、周りの同級生たちの中で日本のビザが取れなかった人も大勢いたから、ビザが取れるか心配になった (SD9)。日本について母語での情報も少ない (SD10)。そのとき留学サービスエージェントに会って



(OPP1)、サポートを受けた。それで、日本の N 市にある日本語学校へ行くことが決まった。

日本へ留学する前の心構えのため、日本にいる先輩に相談を受けた (SG 14)。先輩が日本について情報を得るため「UYAJ」のことを教えた (SG15)。UYAJ の SNS からメンタリングについて知り、参加した。メンターから日本や日本でのキャリアについて情報を得た (SG16)。日本語学校の面接に合格し (BFP2)、日本のビザも取れた (OPP2)。

しかし、Covid-19 の問題で決まった時期に来日できなかった (SD11) し、来日出来るか不安になり (SD 12)、モチベーションが低下した (SD 13)。2020 年 9 月に日本へ行くことが決まり、現地の大学を辞めた (BFP3)。日本で外国人と勉強できる (SG17)、新しい物が学べる (SG18)、また、日本でキャリアを考え (SG19)、日本へ留学した (EFP1)。

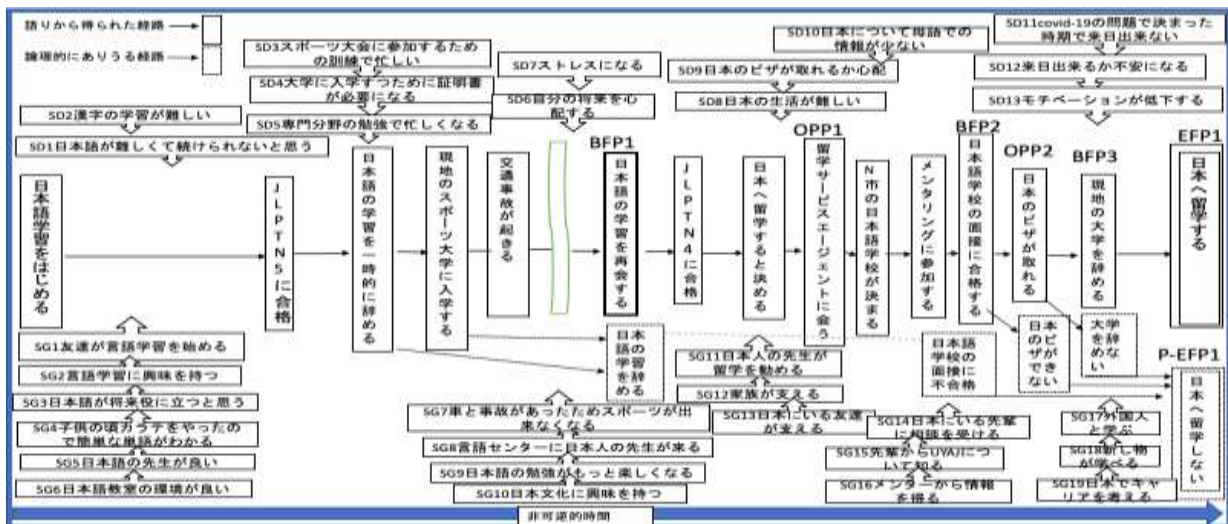
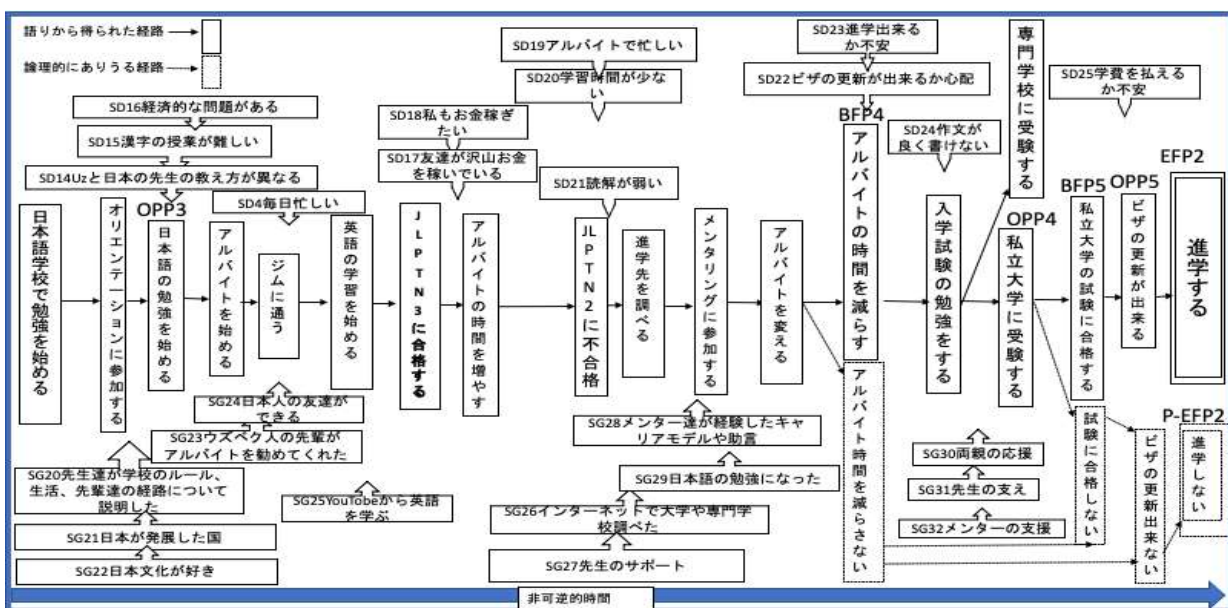


図1. R の TEM 図-1 (第1期、R が「日本語学習を始めたときから日本へ留学する」まで) 来日、2020 年 10 月から日本語学校で勉強を始めた (OPP3)。オリエンテーシ



ョンで学校のルール、日本での生活、先輩達の経路について説明を受けた (SG20)。日

本が発展した国で (SG21)、日本文化も好きになった (SG22)。ウズベキスタンと日本の先生の教え方が異なる (SD14)、漢字の授業も難しかった (SD15)。また、生活費、学費のことで経済的な問題 (SD16) があり、アルバイトを始めた。毎日、学校の勉強とアルバイトで忙しい (SD4)。時間を作ってジムに通い、YouTube で英語の学習をした (SG25)。2021 年 7 月に JLPTN3 に合格した。周りの友達がアルバイトで沢山お金を稼いでいたため (SD17)、私もお金を稼ぎたいと思いアルバイトの時間を増やした。アルバイトで忙しくなって (SD19)、日本語の学習時間が少なくなった (SD20)。2021 年 12 月の JLPTN2 の試験に不合格した。読解が弱かった (SD21)。先生のサポートを受け (SG27) インターネットで専門学校や大学など進学先を調べた (SG26)。また、メンタリングに参加して、メンター達が経験したキャリアモデル、入学試験について聞いた (SG28)。アルバイトの時間制限が 1 週間に 28 時間よりオーバーしてしまい、ビザの更新が出来るか心配になり (SD22) 進学出来るか不安になった (SD23)。メンターからアルバイトを減らし、(BFP4) 接客業のアルバイトに変えた方がいいと勧められた。接客業に関するアルバイトは日本語の勉強にもなった (SG29)。大学入試の受験勉強をした。作文がよく書けなかった (SD24) ため、書く練習をした。専門学校に受験するか、大学に受験するか悩んでいた時、両親が大学を応援した (SG30)。先生が大学願書の書き方 (SG31)、メンターから面接試験のコツの支援があった (SG31)。私立大学に受験し (OPP4)、合格した (BFP5)。私立大学の学費が高くて払えるか不安になった (SD25)。ビザを更新して (OPP5) 進学する (EFP2)。

図 2. R の TEM 図-2 (第 2 期、R が「日本で勉強を始めてから進学する」まで)  
以下の表 3 では、TEM 図で示した R のキャリア形成プロセスにおける「分岐点 (BFP)」と「必須通過点 (OPP)」である。

表 3 R のキャリア形成プロセスにおける「分岐点 (BFP)」と「必須通過点 (OPP)」

「分岐点 (BFP)」	日本語の学習を再開する (BFP1) 日本語学校の面接に合格する (BFP2) 現地の大学を辞める (BFP3) アルバイトを減らす (BFP4) 大学の試験に合格した (BFP5)
「必須通過点 (OPP)」	留学サービスエージェントに会う (OPP1) 日本のビザが取れる (OPP2) 日本語学校で勉強を始める (OPP3) 私立大学に受験する (OPP4) ビザの更新ができる (OPP5)

表 4 では、TEM 図で示した R のキャリア形成プロセスにおける「社会的助勢 (SG)」と「社会的方向づけ (SD)」のカテゴリーと具体的である。

表 4 R のキャリア形成プロセスにおける「社会的助勢 (SG)」と「社会的方向づけ (SD)」

カテゴリー	SG/SD	具体例
言語・文化	SD	漢字の学習の難しい (SD1) (SD15)、学習を続けられないと思う (SD2) 日本語の学習時間が少ない

		(SD20) 読解が弱い (SD21) 作文がよく書けない (SD24)
	SG	友達が英語、韓国語など言語学習を始めた (SG1) Rも言語学習に興味を持つ (SG2) 簡単な単語がわかる (SG4) 日本語の勉強が楽しくなる (SG9)、日本の文化に興味を持ち (SG10) YouTubeで英語を学ぶ (SG25) アルバイトは日本語の勉強にもなった (SG29)
	SD	ウズベキスタンと日本の先生の教え方が異なる (SD14) 友達が沢山お金を稼いでいる (SD17)
人間関係・支援	SG	日本人の先生が留学することを勧めた (SG11) 家族が留学を応援する (SG12)、日本にいる友達が支える (SG13) 日本にいる先輩に相談を受けた (SG14) 先輩から UYAJについて知る (SG15) メンターからキャリアモデル、入学試験・面接のコツの支援 (SG16) (SG28) (SG31)、先輩達の経路について聞く (SG20) 先生のサポート (SG27) 両親が大学を応援 (SG30) 先生が大学願書の書き方 (SG31)
	SD	スポーツ大会に参加するための訓練で忙しくなり (SD3) 大学に入学するために大会に勝って、証明書を得る必要 (SD4) 専門分野の勉強で忙しい (SD5) 自分の将来を心配 (SD6)、ストレスになる (SD7) 日本での生活が難しい (SD8) 日本について母語での情報も少ない (SD10) 来日出来るか不安になる (SD12)、モチベーションが低下する (SD13) 経済的な問題がある (SD16) アルバイトで忙しい (SD4) (SD19) 進学出来るか不安になった (SD23) 学費を払えるか不安 (SD25)
好み・困難・問題	SG	日本語の先生が良い (SG5)、教室環境も良かった (SG6) 交通事故があってスポーツをできなくなる (SG7) 言語センターに日本人の先生が来る (SG8) 日本で外国人と勉強できる (SG17)、新しい物が学べる (SG18) 日本でキャリアを考える (SG19) 日本が発展した国 (SG21)、日本文化が好き (SG22)
	SD	日本のビザが取れるか心配 (SD9) Covid-19の問題で決まった時期に来日出来ない (SD11) ビザの更新が出来るか心配 (SD22)
ビザ・制度	SG	インターネットで専門学校や大学など進学先を調べた (SG26)

## 5. 考察

本研究では、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスを構成する経験と変容、およびその背景にある社会的要素、そのキャリア形成プロセスにメンタリングがど



のような影響を与えたのかを明らかにすることを目的した。以下では、上記で述べた研究結果を踏まえて考察を行う。

R のキャリア形成プロセスを TEM 図で表すことによって、分岐点と必須通過点となった複数のポイントが明確になった。また、それに影響を与えた社会的助勢と、社会的方向づけは「言語・文化」、「人間関係・支援」、「好み・困難・問題」、「ビザ・制度」の4つのカテゴリーにまとめられた。

### R のキャリア形成プロセスにおける経験と変容

「ウズベキスタンの大学を辞めて」から「日本へ留学」へ

R は言語学習に興味を持ち (SG2) 日本語の勉強を始めた。4ヶ月で勉強して JLPTN5 取得した。しかし、R の第一希望は現地のスポーツ大学に入学することだったため、訓練で忙しく (SD3)、大学に入学するために証明書を取得する必要 (SD4)、また、専門分野の勉強 (SD5) もあった。そのため日本語の学習を辞めた。瀬戸口(2017)は、ウズベキスタンの大学で日本語を専攻する学習者の学習動機を調査し、意識構造を明らかにした。日本語学習者が日本語を諦めてしまうことがあり、それは日本語を学習した先の不透明さということも原因しているのではないだろうかと主張している。R も当時、日本でのキャリアを考えていなかったため、日本語学習を諦めたであろう。

R 現地のスポーツ大学に入学するが、2019年に交通事故が起こり、スポーツをできなくなった (SG7)。R は自分の将来を心配し (SD6)、ストレスになった (SD7)。日々悩んでいたとき、言語センターに日本人の先生が来た (SG8) ことを知った。1年間休んだ後、また日本語の学習を再開する (BFP1)。日本語の勉強が楽しくなり (SG9)、日本の文化に興味を持ち (SG10) 始めた。日本人の先生が日本へ留学することを勧めた (SG11)。瀬戸口(2017)は、教師依存の学習者が多く見られるウズベキスタンでは、教師が学習者との関係を築き、学習者のビリーフを理解し、よい環境で授業を行うことが学習意欲の維持・向上に最も有効であると述べている。R のキャリア形成プロセスにも日本語教師の要因が大事な役割を果たしたと言える。

また、家族が留学を応援する (SG12)、日本にいる友達が支える (SG13) 日本にいる先輩に相談を受けた (SG 14)、メンターからの支援 (SG16) (SG28) (SG31) など人々の後押しが見られる。さらに、R の日本への留学を手伝ったのは留学サービスエージェントである (OPP1)。ウズベキスタンの私費留学生は留学サービスエージェントを通して留学することが一般的と言える。日本語学校の面接に合格し (BFP2) 現地の大学を辞める (BFP3)。R は日本で外国人と勉強できる (SG17)、新しい物が学べる (SG18)、日本でキャリアを考え (SG19) 留学する。

「来日して」から「働く留学生」へ

来日して日本語学校で勉強を始めた (OPP3)。生活費、学費のことで経済的な問題 (SD16) があり、アルバイトを始めた。毎日、学校の勉強とアルバイトで忙しい (SD4)。周りの友達がアルバイトで沢山お金を稼いでいたため (SD17)、R もお金を稼ぎたいと思いアルバイトの時間を増やした。アルバイトで忙しくなって (SD19)、日本語の学習時間が少なくなった (SD20)。2021年12月の JLPTN2 の試験に不合格した。

岩切(2017)、(2015)は「働く留学生」をめぐる諸問題についての考察し、留学の初期費用にかかる大金を工面するために借金をした者もあり、生活費・学費・家族への送金・借金返済をすべて日本でのアルバイト収入で賄っているケースがあること、日本語学校での学習を負担と捉え、就労だけを目的している留学生がいると述べている。「働く留学生」、「出稼ぎ留学生」の問題でビザの更新ができないウズベキスタン人留学生も増加



している。Rもこのような状況にいたが、メンターからアルバイトを減らし、(BFP4) 勉強に注目するようにアドバイスを受けた。メンタリングがこのような問題を解決策として効果的と言える。

### Rのキャリア形成プロセスにメンタリングの影響

Rはウズベキスタンで日本について母語での情報も少ない(SD10)と述べた。メンタリングに参加して日本でのキャリアしているウズベク人メンターからキャリアモデル、入学試験・面接のコツの支援(SG16) (SG28) (SG31)など助言やサポートを受けた。それはRのキャリア形成に大きな影響を及ぼしたと言える。大西(2014)は、日本語との接触機会が少ない環境で学ぶ日本語学習者は、日本語を使用することでの有能感が得られにくい、就職などを目的としにくい、将来の使用目的を描きにくいという状況に置かれていると述べている。上記の例でわかるように留学生支援にメンタリングが欠かせないものと言えるだろう。

## 6. まとめ

本研究では、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスとそのプロセスにメンタリングがどのような影響を与えたのかを明らかにすることを目的とした。また研究目的を達成するために、2つの研究課題(RQ)を設定した。

**RQ I** : ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスを構成する経験と変容、およびその背景にある社会的要素とは何か。

**RQ II** : ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスにメンタリングがどのような影響を与えたのか。

上記の課題における研究成果は以下のようにまとめられる。

まず、研究課題(RQ I)については、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスをTEM図で表すことによって、分岐点と必須通過点となった複数のポイントが明確になった。それは、日本語の学習を再開する(BFP1)、日本語学校の面接に合格する(BFP2)、現地の大学を辞める(BFP3)、アルバイトを減らす(BFP4)、大学の試験に合格する(BFP5)、留学サービスエージェントに会う(OPP1)、日本のビザが取れる(OPP2)、日本語学校で勉強を始める(OPP3)、私立大学に受験する(OPP4)、ビザの更新ができる(OPP5)である。また、それに影響を与えた社会的助勢と、社会的方向づけは「言語・文化」、「人間関係・支援」、「好み・困難・問題」、「ビザ・制度」の4つのカテゴリーにまとめられた。

研究課題(RQ II)については、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスにメンタリングの影響が見られた。それは、メンタリングに参加してメンターから日本の情報、キャリアモデル、入学試験・面接のコツの支援、(SG16) (SG28) (SG31)など助言やサポートを受けた。また、メンターからアルバイトや将来にアドバイスを受け、「働く留学生」から「成長する留学生」へ変容したと言える。メンタリングが留学生のキャリア形成に大きな影響を及ぼしたと考えられる。

以上の結果から、留学生のキャリア形成に同国人のメンターに相談できることに、メンタリングの意義があることを本論文の結論としたい。

## 7. 今後の課題

本研究では、ウズベキスタン人留学生のキャリア形成プロセスの経験と変容を詳細に分析することを目的に、インタビュー調査を行い、TEAを用いて分析した。しかし、

今回の研究では研究協力者が1名私費留学生にとどまっており、十分に一般化できるデータであったとは言い切れない。今後、研究協力者を増やし、ウズベキスタン人国費留学生のキャリア形成プロセスとそのプロセスにメンタリングがどのような影響するか研究を重ねていきたい。

### 参考文献 (REFERENCES)

1. 岩切朋彦(2015).日本語学校におけるネパール人学生の様相とその諸問題—福岡県 A 校に通うネパール人学生へのライフストーリーインタビュー『西南学院大学大学院国際文化論集』9, 79-112.
2. 岩切朋彦(2017).「働く留学生」をめぐる諸問題についての考察(1): グローバルな移民現象としてのネパール人留学生」鹿児島女子短期大学紀要 53,( p15-24)2017-10. 鹿児島女子短期大学
3. 大西, 由美 (2014) 「日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究: 日本語接触機会が少ない環境の学習者を対象に」北海道大学, 甲第 11425 号
4. 瀬戸口 達也(2018)「日本語学習者の学習意欲の揺れとその要因: ウズベキスタンで日本語を学習する大学生の事例から」日本語教育論集 = Working papers in teaching Japanese as a foreign language (27), 15-22, 2018
5. 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ(2015a)『TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ—』新曜社
6. 山本 晋也 (2020) 「留学生のキャリア形成を支援する大学日本語教育の役割: -キャリア形成プロセスの言語化を通じて-」1-199 (2020), 博士(日本語教育学), 早稲田大学, 32689 甲第 6183 号
7. 渡辺直登・久村恵子 (1999) 『メンター／メンタリング入門』東京: プレスタタイム社